

鹿児島の動物⑤ **イシカワガエル**

(アカガエル科)

脊椎動物担当 中間 弘

奄美の森を夜に歩くと「ヒョーッ」という、高くよく澄んだ、それでいてどこか物悲しいような声が聞こえてきます。奄美大島に生息するイシカワガエルの声です。イシカワガエルは、頭から尾までの長さが約12cmにもなる大型のカエルで、緑色の体色に金色の斑紋が全身に散らばり、「日本一美しいカエル」と称されます。鹿児島県では平成14年に県の天然記念物に、平成15年には指定希少野生動植物に指定して、保護に努めています。

1～3月は、奄美の森のカエルたちは恋の季節を迎えます。イシカワガエルにとっては沢の上流部がデートの場所、いえ、自分のDNAを残すための熾烈な花嫁争奪戦の場でしょう。イシカワガエルの雄が雌を待つのは、大きな石が折り重なるように連なった溪流で、産卵をするのに適当な空洞がある岩の下です。空洞は、底に砂礫されきがあって水が溜まり、新鮮な水が適度に流入するが大雨でも卵が流されにくいなど、いろいろな条件が要求され

るようです。雌は雄の声に誘われるように空洞に入りますが、これで必ずしも結婚成立とはいかず、より産卵条件の良い場所を求める雌に選択権があるようです。雌が気に入る空洞を確保すること、それが雄にとっての本当の花嫁争奪戦です。カエルの社会もなかなか厳しいようです…



イシカワガエルの生息環境は、急な斜面を溪流が走る照葉樹林内です。水源涵養林など自然度の高い森では、イシカワガエルも高密度で生息していますが、伐採や林道建設など開発が進んでいる地域では声が聞かれなくなってきています。

これからしばらくの期間は奄美の森が賑やかな季節です。機会があれば、一生懸命な雄たちの声に、静かに耳を傾けるのも楽しいですよ。

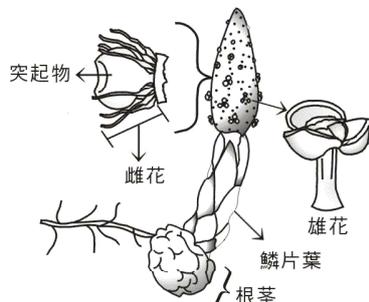
鹿児島の植物⑤ **キイレッツチトリモチ**

(ツリトリモチ科)

植物担当 大屋 哲

ツチトリモチの仲間は、葉緑体を持たず樹木の根に寄生する植物です。名前は、根茎をすりつぶして、鳥もちに利用したことに由来します。

キイレッツチトリモチは、明治43年、当時喜入小学校の教員だった山口静吾氏によって鹿児島市喜入町で初めて発見されました。九州及び南西諸島の海岸近くの低木林に生えるトベラやシャリンバイ、ネズミモチの細根に寄生します。ツチトリモチの花穂が鮮紅色であるのに対し、キイレッツチトリモチは、



黄白色をしています。花穂の表面には、茶色の雄花が点在しているのが見られますが、雌花は表面にあるぶつぶつの突起物のつけねにつくため、見えにくくなっています。花は10月下旬～11月下旬ごろに咲きます。



鹿児島市吉野町にあるキイレッツチトリモチの産地は、大正10年3月に国の天然記念物に指定されています。